



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.33 No.1 (No.125) Jan. 2000

フランスにおける琉球関係資料の調査

学長 森田 孟進

1997年度から3年計画で、文部省科学研究費(国際学術調査)によって、フランスにおける琉球関係資料の発掘調査をグループで行ってきた。今年度(1999年度)が最後の締めくくりの年である。現在、収集した全資料の整理・翻訳・研究のまとめにとりかかっている、2000年の春には成果を公刊することになっている。

共同研究のメンバーは赤嶺政信氏(琉球大学教授・民俗学、本研究の代表者)、パトリック・

ベイヴェル Patrick Beillevaire氏(フランス国立社会科学高等研究所教授・民俗学・琉球研究)、川平博一氏(琉球大学教授・言語学)、渡名喜明氏(那覇市立壺屋焼物博物館長・宗教学・民芸)、豊見山和行氏(琉球大学助教授・歴史学・琉球近世史)及び私(フランス文学・比較文学)の計6人である。私自身をまず棚に上げて言えば、5人とも一癖も二癖もある個性的で優秀な研究者たちである。

目

フランスにおける琉球関係資料の調査	1
Webブラウザからの新たな利用者	
サービス提供について	7
複写コーナーの移動について	7
CD-ROM等電子的情報資料に関する	
アンケート調査で寄せられた教官	
からの意見について	9

次

原忠順文庫貴重資料展	14
沖縄関係資料新着案内	15
本学教官著作寄贈図書案内	18
図書館映画会	19
平成11年度NACSIS-IR(新IR対応)	
講習会を開催	19
お知らせ	20

附属図書館のホームページ (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

初年度の資料収集はたいへん稔り多いものであったと自負している。その原動力となったのはパリ在住のベイヴェル氏であった。氏は1997年の時点ですでに10年の年月をかけて琉球関係資料の発掘にあたっていたからである。資料の所在を知っている氏の案内で我々はフランス国立図書館、パリ外国宣教会、海事資料館、人類博物館、大学共同利用東洋語図書館等を訪ねた。資料の所在を求めて移動する道中、パリの歴史と建築物に詳しい氏はしばしば立ち停まって指さしつつ我々に説明してくれるのだが、その説明ぶりに感嘆して、「いつでもプロのガイドになれるね」と私がいうと、氏は黙ってうなづいていた。私はホテルの近くの古本屋で『古パリ案内』という一冊を買い込んだが、2週間のパリ滞在中この案内書を読む余裕は全くなかった。

初年度の最大の収穫は第一に、1844年から1862年まで断続的に琉球に滞在した8人の宣教師たち(Forcade, Le Turdu, Adnet, Furet, Girard, Mermet, Petitjean, Mounicou)が琉球やマカオ等からフランスへ書き送った書簡をマイクロフィルムに収めたこと、第二に1846年運天港におよそ2ヶ月も滞在したセシル(Cecille)提督の書簡を蒐集したことであろう。

宣教師たちの書簡は判読がきわめて困難な状態にあるが、ベイヴェル氏が活字化してパソコンに収め、それを我々が日本語に訳する作業を進めているところである。A4版ですでに350ページ(仏語)に達する量である。セシル提督は琉球国と通商条約を結ぶための交渉をしつつ、運天港の測量調査をしていて、当時の運天港図等も残しているが、その読解はこれからの作業のひとつとなっている。

琉球に滞在した仏人宣教師フュレに関する研究業績としてはベイヴェル氏単著の『明治維新前夜の琉球及び日本における宣教師ルイ・フュレ(1816-1900)』(“Un missionnaire aux îles Ryukyu et au Japon à la veille de la restauration de meiji”、Eglise D'Asie刊)が今年(1999年)2月に刊行された。全248ページ、フュレの伝記、書簡等の資料が収められている。長年にわたる資料探索に裏打ちされた研究成果である。注、書誌には氏の蘊蓄のほどが良くうかがえる。これまでヨーロッパの文献に出た挿絵・写真等の中でも珍しいものが44葉収

録されているのも楽しい。

フランスにおける琉球関係の資料としては、琉球王朝がフランスのインドシナ艦隊のセシル提督やゲラン(Gerin)准将、あるいは宣教師たちへ贈った“物”の探索も調査作業のひとつである。宣教師たちが独自に蒐集し持ち帰った物もあるであろう。また、1867年のパリ万国博において、薩摩琉球国の名で出品された琉球特産の漆器等はフランスに残っていないだろうか。

残念ながら、現在のところ、パリの人類博物館(Le Musée de l'homme)で琉球古典焼数点を確認したことにとどまっている。これらの古典焼は1939年に那覇で焼かれたもので、飾皿、カラカラー、ソーカー、酒杯、湯飲み等であるが、カタログ記載品目の大半は、失われてしまったのか見出せなかった。なお、素人の私にはその価値は解らなかった。近いうちに渡名喜明氏による報告が出ることになっている。琉球王府は当時来琉した異国の人々に対して薪水、食料(豚、ニワトリ、卵、野菜など)は代価を取らずに提供しているが、琉球の優れた特産品は贈らなかったのではないかと、との見方がある。通商をこたわるために、琉球には通貨もなく、交易のための特産物もない、と繰り返して言っていたからである。しかしながら、我々の探索が現時点でなお不十分であることも事実である。

2年目の収穫のひとつはシャルル・アグノエル(Charles Haguenaer)の琉球調査ノート7冊(うち1冊は小型の手帳)をコレージュ・ド・フランスの図書館にて発掘し、複写したことであろうか。

アグノエルは日本・朝鮮の言語文化担当のパリ大学教授であった(1896~1976)。琉球に関する論文も管見に入った限りでは7篇ある(ゴレス論争関係、随書流求国論争関係の筆峰鋭い小論をはじめ、琉球における死の表象の特徴に関する有名な論文等)。その大著『日本文明の起源』(1956)では琉球における葬式についての記述があり、久高島の風葬の写真(遠写)を含む琉球関係の写真が8葉収められているので、アグノエルが1930年(昭和5年)3月・4月に琉球で撮った写真、収集した資料の行方を探索することも今回の調査課題のひとつであった。

アグノエルの蔵書はコレージュ・ド・フランスに寄贈されているので、コレージュ・ド・フ

ランスの日本高等研究所長プチマンジャンーマツザキ女史及び図書館員の全面的な協力を得て、未整理のダンボール箱の中の写真、ハガキ、手紙、新聞切り抜きをみる事ができた。アグノエル自ら撮った九州地方の神社・祠・民家等の写真が数多くあったが、沖縄に係るものと思われるものは見出せなかった。調査の2日目、アフリカ人留学生J君（非常勤職員）が地下から運んできて、“Voilà”（はい、これ）と私の前に置いた一束の資料の中に“Voyage aux Ryukyu”という文字を見た時には手が震えた。ITOMANと表紙に書かれたノート・ブックが出てきた時には足も震えたが、コレージュ・ド・フランス図書館2階の小部屋が10月だというのに冷えこんでいたせいばかりではなかったろう。

「琉球への旅」と記された手帳には3月1日午前11時に大阪で上船し、名瀬経由で那覇に着くまでのメモ、那覇着後、Baron Sho（尚男爵）の知遇を得て、尚家文書を閲覧したことなどが、あくまでメモ風に記されている。歓迎夜会が辻のyukakuで催され、その席でアグノエルは琉球舞踊も鑑賞している。ノート6冊に仮に番号を附して、どの地方で古老、ノロから聞き取り調査を行ったか次に掲げておく。ノートNo.1.糸満、No.2.首里、No.3.玉城、知念、久高、No.4.瀬嵩、恩納、その他、No.5.今帰仁、辺土名、No.6.糸満、名護、首里（方言調査メモ）。

アグノエルによるこれらの調査ノートが今日どのような意味を持つかについては専門家の判断を待たねばならない。ノートを活字化し、さらに日本語に訳す作業も必要となろう。ただし、公刊するにあたってはあらためて御遺族とコレージュ・ド・フランスの許可が必要であることをここに明記しておかねばならない。

2年目からは未刊行資料にとどまらず、既刊の古書で琉球関係の記述があるものは努めて購入することにしたが、第一に古書との出会いがきわめて稀であり、出会いがあっても予算上の都合もあってなかなかままならぬのが実状である。パリの東洋学専門の古書店Zの主人X氏は大学ではアラビア語を専攻し、仏国外務省が世界の多くの国で設立しているフランス語・フランス文化を教える学院の教師だったことがあり、東京日仏学院で教えたこともあり、カタコトの日本語を話し、古書の講釈を早口のフラ

ンス語でまくしたてた後で「安い！」と日本語で叫ぶのである。私たちは陰では「ムシュー・安い」と呼ぶことにした。私たちはモンパルナスのホテルのフロントのチーフにも「ムッシュ・無愛想」というあだ名をつけたものだ。

古書店Zの主人X氏は職業柄とはいえフランスにおける東洋学の歴史に詳しい。私は多くのことを彼から学んだ。資料蒐集課程での余得である。この店の奥さんはパリ東洋語学校で中国語を学んだ方で大変美しい人である。黙ってパソコンに向かっていて、主人と私の話が時としてもつれるといつも私の見方をしてくれる、と私は一人で思い込むことにした。この古書店では稀覯本のケンプフェル『日本史』（全3巻、1763年刊、仏語版小型本）を3日通って3日目に「エイッ！」と言って買った。デュモン・デュルヴィルの旅行記の探索など古書の話は尽きないが、ここではこれ以上続けられないことにする。

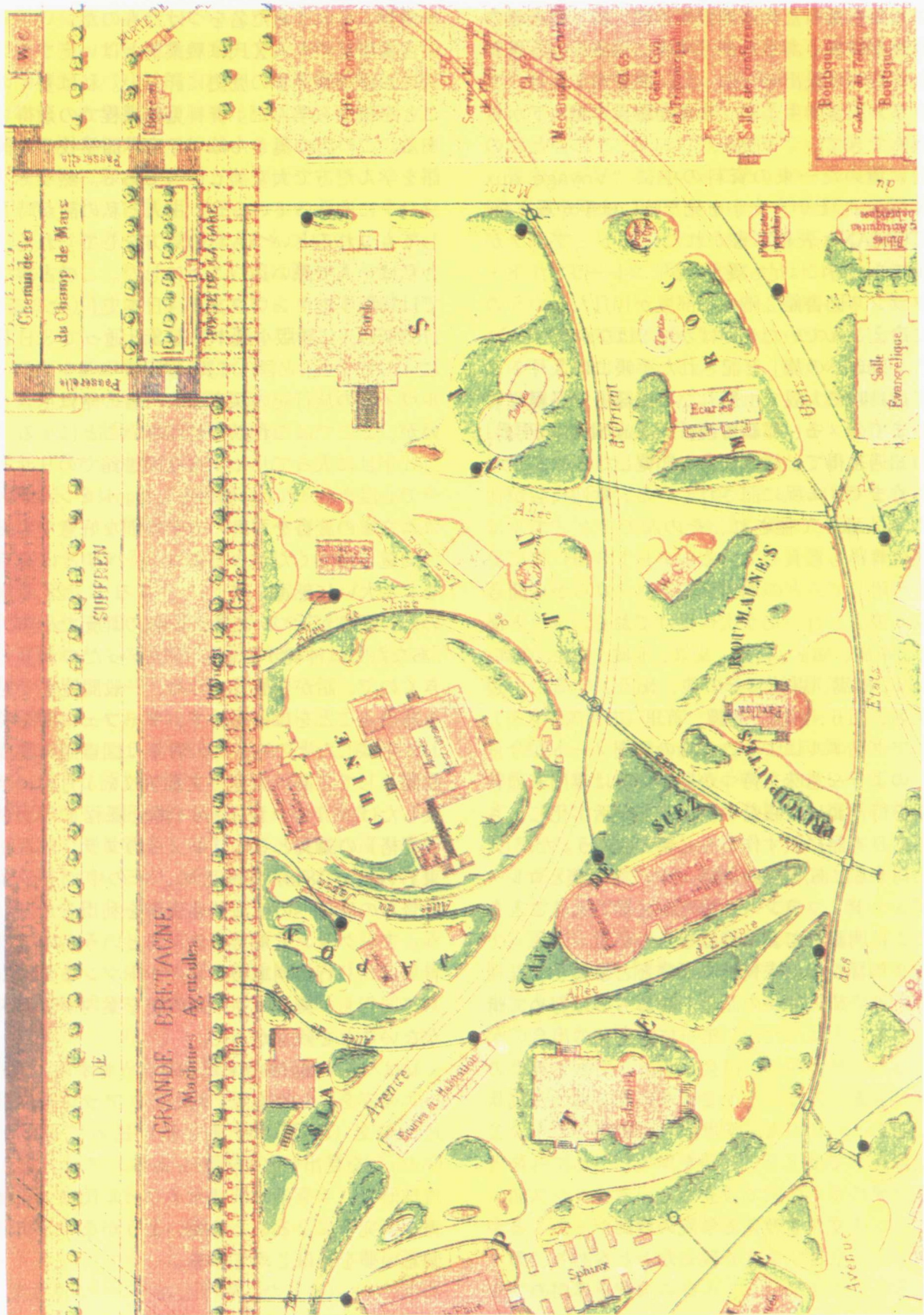
3年目に入ってリイル市立図書館でのリサーチで心温まるうれしい経験をした。レオン・ド・ロニ文庫の蔵書を司書の方が特別な好意でもって閲覧させてくださったので、「パリとは違うな」と大いに感激しているところへ、22、3歳の若い司書が近づいてきて、私の耳元で小声で「あなた方は沖縄からいらっしゃったのか」ときくので、話が発展しはじめ、一般閲覧室で話を続けることをはばかって、カフェに席を移して懇談したところ、この青年は図書館員養成機関として名高い国立古文書学校を1月前に卒業したばかりで、D・E・A（博士課程1年次修了資格）の論文として『ギゾーのフランスと極東』（1840～1848）をまとめ、その中でセシル提督らの琉球への航海関係資料を利用したという。アレクサンドル・アラン君という名のこの青年はパリ行の列車のコンパルトマンまで私たちに同行し、美しいリイルの街を案内する時間がないことを残念がった。

私はパリで福沢諭吉らと知り合うレオン・ド・ロニの姿をくしくも思い起した。アラン君は前述の論文（361頁）を最近私に送ってきた。Oukiniaを見出しとする節もある。アラン君が琉球研究に手を染めればペイヴェル氏につぐ優秀な研究者になることは疑いようがない。私は楽しい夢を見はじめている。

（もりた もうしん：フランス文学）

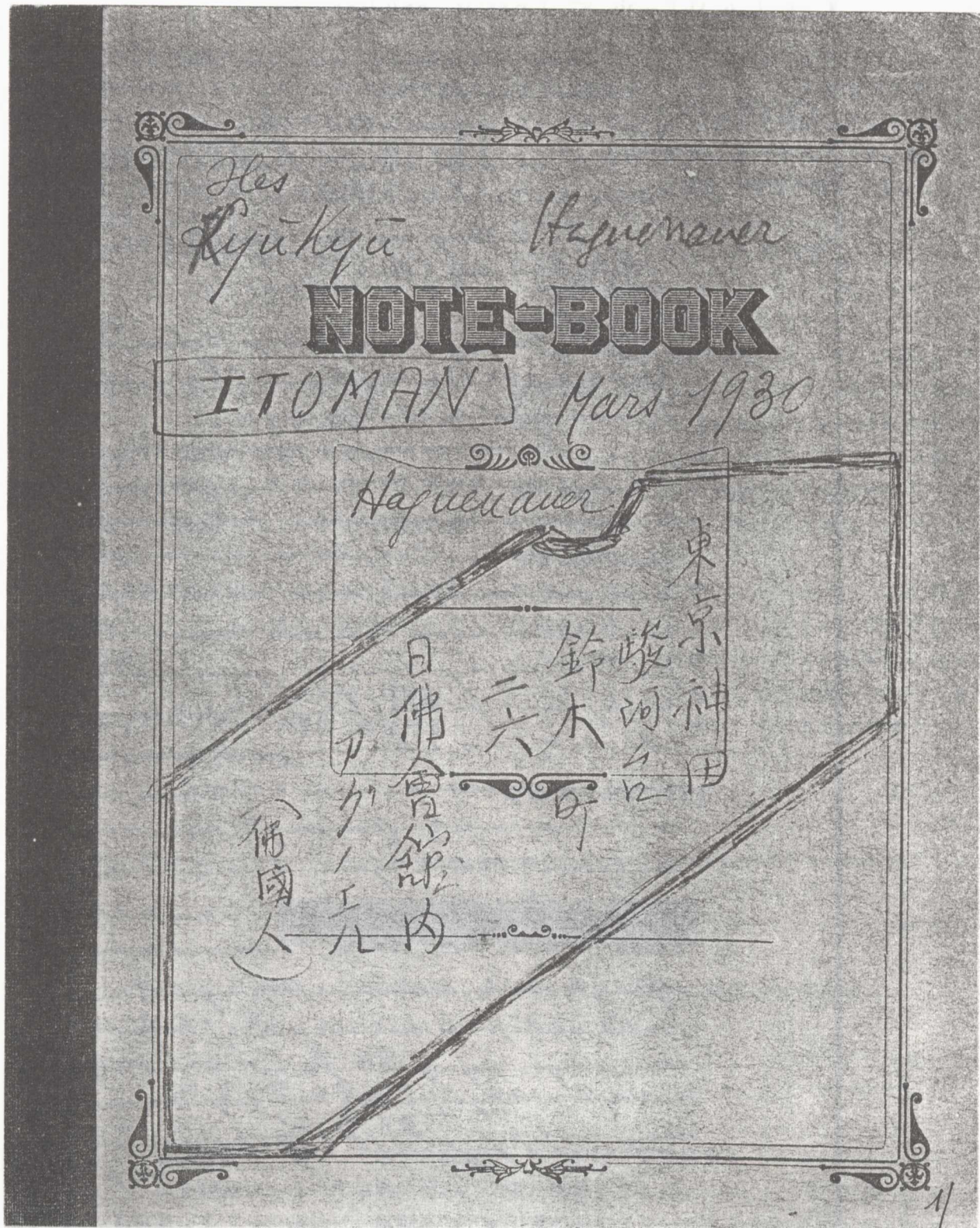
1. パリ万博会場の案内図

〈挿し絵の説明〉1867年パリ万博会場の案内図の一部、中央上部に「支那」のパビリオン、その左側に「日本館」、右側に「薩摩藩」のパビリオンがあり、支那小径と交わる形で琉球小径Allée de Lioukiouとある。ペイヴェル氏所蔵。



2. 沖縄調査ノートを表紙

〈挿し絵の説明〉アグノエルの沖縄調査ノート6冊のうちの1冊、糸満編、1930年3月。コレージュ・ド・フランス所蔵。



3. セシル提督の手紙

〈挿し絵の説明〉セシル提督の手紙。1846年7月10日付、運天港のクレオパトル号にて、中山(首里)の総理大臣宛。フランス国立図書館海事資料館所蔵。

Archives Nationales Fonds MARINE BB/4/637 (11280)

Copie Lettre en français à celle que m'a remise le Ministre Général
Primitif de Chouï, le 5 Juillet 1846.

Musée d'histoire naturelle n° 104611.007


Musee n° 3.

force majeure

419

Le O. Amiral Commandant les forces navales françaises en Chine,
dans le Mandel l'Inde et de la Chine,

A. S. E. Chang. Sing. tchou, Ministre Général de la
dite de Chouï-Chan (Chouï.)



Excellence, j'ai lu avec l'attention qu'elle mérite, la
lettre en date du 2 de la 5^e lune intercalaire, que S. E. m'a fait
l'honneur de m'adresser le 5 Juillet 1846.

J'ai soigneusement examiné les raisons mises en avant par
V. E., conjointement avec les Conseils du Roi, pour être signés
un traité de commerce avec la France. J'ai le regret de demander
que j'en ai pu saisir certaines de la justesse des raisons. Ainsi, pour
exemple, votre illustre Royaume, très pauvre, manque d'or, d'argent,
de cuivre, de fer et de beaucoup d'autres choses, les grains n'y abondent
pas et il n'a que fort peu de produits, et cependant son commerce
dans la province de Fou-tchou (Fokien), des étoffes de soie pour
le Roi et les Mandarins, des biens d'agriculture pour les nobles, les
Hydrographes qui ont contribué au Souverain du Céleste Empire, et les
marchandises que son port exporte en France, sont
pour le produit de votre illustre Royaume : elles viennent de l'Inde
de la Chine (Japon); de plus, le riz, le bois, les marais de fer,
le coton, les feuilles de thé, le tabac, l'huile de camellier, la cire
végétale, les ustensiles, les instruments (outils) en général, et
sans nombre d'autres que les marchands de cette de l'Extrême Orient
apportent en France, et que j'en puis comprendre, car si dans ce
travail d'objets de l'étranger, et dans ce qui donne quelque chose en
échange, est le paiement d'un fait en étoffes du pays, en sucre,

en

Web ブラウザーによる新たな 利用者サービスの提供について

図書館では、平成12年2月1日から株式会社NTTデータの図書館業務システム(NALIS)を導入し運用を開始します。それに伴い、新たな利用者サービスとして、附属図書館のホームページ上で「図書の購入依頼」と「ILL(複写及び貸借依頼)の申込み」が行える利用者サービスの準備を進めています。

図書館では、3年前を電子図書館化元年と位置づけ、これまで、以下の事業を行ってきました。

1. 各種CD-ROMデータベースの提供
2. 情報リテラシー教育の為に Library Workshop の提供(授業にも利用)
3. ホームページの提供
4. 大正期の沖縄風俗を写したガラス写真の画像の提供
5. 宮良家文書の画像化データベースの提供
6. 琉球語データベースの提供(学内教官との共同構築)
7. 学長プロジェクトによる資料館(風樹館)の所蔵資料データベース構築と図書館ホームページからの公開支援

これを受け、来る2000年(平成12年度)を、利用者サービス電子化元年と位置づけ、電子化環境(Webブラウザ)による各種利用者サービスの提供に向けて準備を開始します。手始めとして、平成12年度から前述の「図書の購入依頼」と「ILL(複写及び貸借依頼)の申込み」がWebブラウザで可能となります。また、telnetを利用して行っていたOPAC(オンライン所蔵目録検索)がWebインターフェースに変更されて一層便利になります。

なお、「図書の購入依頼」と「ILL(複写及び貸借依頼)の申込み」サービスを開始する事前準備として、本人認証を行うための利用登録や、教官の場合は各学部の会計担当者との購入承認等の事務的手続きの調整を行う必要がありますので、詳細については決まり次第ホームページ等でご案内します。

また、平成12年度からホームページの大幅な改造を計画しています。これまでの情報提供中心から、様々な図書館サービスを利用するための分かり易くかつ利用しやすい種々のツールをホームページ上で提供していきたいと考えています。

※図は8頁を参照

複写コーナーの移動について

複写コーナーが次のように移動しました。利用に関するお問合せは総合カウンター [電話 098-895-8170 (直通)] まで。

- ① コイン式コピー機(私費)
玄関入口左側(以前はカウンター前)
- ② IDカード式コピー機(校費)
新着雑誌コーナー(2階2B閲覧室 *以前は3階雑誌室)
新着雑誌コーナーの移動に伴い、2階に移動しました。

*用紙・トナーの補給は、原則として利用者のセルフサービスとなります。

CD-ROM等電子的情報資料に関するアンケート調査で寄せられた教官からの意見について

さる平成11年9月16日から30日の間、附属図書館の電子的情報資料サービスの参考にするため「CD-ROM等電子的情報資料に関するアンケート調査」を実施したところ、多数、御回答頂き関係者の方々には御礼申し上げます。

回答については、現在、集計中ですが、結果については、後日、報告したいと思っております。

以下は、「CD-ROM等電子的情報資料に関するアンケート調査」で回答を頂いた教官のご意見をまとめたものです。（電子的情報資料以外についての意見も多数いただいております、後ろの方にまとめてあります。）意見は内容によって、グルーピングしてあります。また、それぞれの意見の末尾に下記の凡例にしたがい、コメント番号を付与してあります。

<凡例>

- ①利用者が言う通り、今後とも実現に向け努力していきたいと思うもの、
- ②今後検討していきたいもの、
- ③利用者に対する説明不足を痛感するもの、
- ④図書館が努力不足だと思うもの、
- ⑤ご迷惑をおかけして申し訳ないと思うもの、
- ⑥利用者にももう少し考えていただきたいと思うもの、
- ⑦利用者にお問い合わせないとよくわからないもの、
- ⑧ご理解・ご支援ありがとうございます、
- ⑨その他

（アンケート意見）

1. CD-ROM等のデータベース・サービスについての要望

1) 新規導入・提供希望のデータベース

・「法律判例文献情報」は法学専攻の学生にも使わせたいので、附属図書館でぜひ購入して頂きたく存じます。私の出身大学では、図書館に備え付けてあり、教官のみならず院生、学生も積極的に活用していました。ご検討をお願いいたします。(①)

・琉球大学図書館で提供していない3つデータ

ベース(Index to Legal Periodicals/Lexis-Nexis/法律判例文献情報)は、法律学研究者(院生を含む)にとって、重要度、緊急度の高い研究資料であるので、特別な御高配を頂き、早急に揃えて下さるよう、希望します。

(①)

・私は法文学部に所属の教官ですが、新聞、雑誌(各国の主なもの)だけでなく、法制度、判例、経営・経済の関係資料を多数含み、研究・教育上不可欠と考えられるLexis-Nexisデータベースをぜひ早く導入していただきたいと強く希望いたしております。その需要はA&HCIやABI/Inform等に比し、より高いと思われますし、現在法文学関係のある国立大学の多くですでに導入されております。

(①)

・ERICはぜひ入れてほしい。(①)

・できれば、CINAHLも(導入してほしい。)

(②)

・JOISデータベースのJICSTファイルは時々利用しています。これを各教官室で利用できるようにはできませんか。(②)

・CIS Cong..UniverseやLexis-Nexis、First Searchなどの有料データベースや学術系オンラインジャーナルなどWWW上のリソースをキャンパス内からならばアクセスフリーとなるような法人契約をしてほしい。(①)

・特許関係の情報も検索できるようになれば(②)

・Dictionary of Natural ProductsのCD-ROMを導入していただきたい。(②)

・Chemical Abstractについて、1986年以前のものも、もしCD-ROM検索が可能でしたら、是非導入していただきたい。(②)

2) パソコンの機種を問わず利用可能に

(特にMACでの利用)(←MACでの利用については以下全て①)

・研究室のパソコンはMacintoshがほとんどで

- ある。使用できる機種にMacも入れて欲しい。
- ・SCIおよびSSCIのネットワークでの利用もMacにて使用できるようにしてほしい。
 - ・何故、Windows、Macの一方しか使えないのか。今の時代もう少し利用し易い形態を考えるべきだろう。例えばNetscape等のBrowserを使ってWeb形式での利用ができないと難しい。せめて、telnetで入ってでも使えなければ、意味がない。
 - ・Current ContentsをMacでも利用できるようにしてほしい。
 - ・研究室内のMacintoshマシンでも使えるCD-ROMの種類を増やしてほしいと思います。
 - ・Macでは研究室からアクセスできないデータベースがあります。このことについては、非常に不満を持っております。Win.を持っている人との較差があまりにも大きいと思います。この件については、是非納得のいくご回答を、善処をお願い致します。アンケートに回答ただけで、その意見が反映されなければ、全体的に虚無感だけが残ります。全ての人に公平な利益の配分をお願い致します。(①及び③)

3) 操作性の改善

- ・以前にCD-ROM検索を利用しようと思ってアクセスを試みたことがあります。しかし、かなり複雑であきらめてしまったという経験があります。その後、再びアクセスを試みたことはありませんが、もう少し単純な操作ができるようにプログラムを変更出来ないのでしょうか。(①及び⑦)

4) 課金方法の改善

- ・図書館情報検索サービス(CD-ROM)の課金制度には腹立たしい思いをしている。本来、学生・教職員に対して無料でサービスすべきであり、その為に高額な図書館予算を全体で負担しているのではないか。図書館まで行けば無料で使用できると言っているが、これはハッキリ言ってサービスの怠慢である。時間

の無駄であり、図書館の開館時間以外には使うなど言っているようなもので、研究の支障以外の何ものでもない。(②及び③)

- ・一番利用が多いCD-ROMが雑誌記事索引だと思います。授業に研究室からアクセスすることも多く、無料化の方向で検討いただければ幸甚です。(①)

5) Digital Library System 関係 (DLSは、スタンドアローン版のCD-ROMの一括提供システム)

- ・学生に、第一法規の判例情報文献検索を薦めていますが、CD-ROMは入っているはずなのにコンピュータ(DLS)の問題で利用不可といわれたと聞いている。何とか改善できないだろうか。(①)
- ・DLSをもっと使いやすくしてほしい。研究の必要上「台湾時報」を時々利用するが、情報検索以外の遊び(占い、ゲーム等)でパソコンが使われていることが多く、非常に利用しにくい。できれば研究室から利用できるようになると便利なのだが……。(①及び③)

6) 利用案内・利用教育・広報関係

- ・図書館の情報検索システムに関して、いまどのぐらいのことが出来るのか、不勉強でよく判っていないので、使いこなせるよう知識を得たい。マニュアルのような冊子があるとありがたいです。(①)
- ・色々便利なものがあるようだが、使うのが面倒な気がする。やさしい講習会をやってほしい。(①)
- ・授業に取り入れられるだけの知識や時間がありません。情報には注意していますが、雑多な情報が多すぎて、何か絶対に必要という部分が不明確です。あまり、豊富な内容を入れなくて、もっと簡単な(単純な)案内にしてください。(①)
- ・個別に初歩的なことから指導して貰えるような専門指導員と個室があると助かります。(②)
- ・利用できるシステム(コンピュータ)につい

て、くわしい情報をホームページに掲載してほしい。(①)

- ・専門用語勉強不足のため利用に苦勞する。ご指導下さい。(①)

7) 琉球大学オンライン蔵書目録データベース (OPAC) について

- ・OPACはいつ頃使用できるようになるのでしょうか？(③及び⑤)
- ・OPACの一日も早い復旧をお願いします。研究室の端末からOPACに接続できないので、非常に不便です。(③及び⑤)

8) データベース以外の電子的情報資料サービスの充実

- ・世界の一流紙(誌?)のいくつかの論文全文を研究室で見れるようにしてほしい。図書館に往復する時間を節約するため、研究室で直接見れるような方向ですすめてほしい。(①)
- ・学術雑誌等をPDFファイルでネット上から読み込めるようにしてほしい。また、そのようなシステムを全国の学校図書館でネットワークを組むことで、あらゆる雑誌に対応してほしい。そうすることで、読みたい論文が近くの図書館に無い場合でも請求等をしなくてもいつでも読める。(①)
- ・現在かなりの雑誌で、全文閲覧できるシステムになっているが琉球大学ではユーザーID等を教えないため閲覧できない。この様なシステムではプリントされる前のアクセプトされた時から閲覧できるため、図書館でコピーするのと比べると数ヶ月早く閲覧できる。このため研究上大きくマイナスである。2年ぐらい前から医分館に要望しているが返事ももらえない。他の大学でも早いところは2年ぐらい前から行っているようです。雑誌によっては発行から図書館に並ぶまで早くて2ヶ月、遅いと4ヶ月ぐらいかかるので、早急に全文閲覧の件は考えてほしい、また他大学でのサービス例がある事を考えると、この様なサービスを提供しないのは、図書館の怠慢ではないかと考える。(③及び④)

- ・電子ジャーナルの無料トライアルの機会を増やしてほしい。(①)

- ・校費で賄っている雑誌の購入を OnLine 版(電子ジャーナル)に変更可能にして欲しい。(②)

- ・雑誌を電子媒体で購入し、キャンパス外の施設(私の場合は本部町)からもアクセスを可能にして欲しい。(②)

- ・主要学会の中には、論文等をCDで発行しているものもあるので、紙よりCDで収集すると良いと思う。(①)

- ・中国・台湾の資料が近年大量にCD-ROMで出回るようになったが、高額でなかなか個人の研究費で購入できない。学生用図書購入費(1人4万)でも足りないため、CD-ROM用の予算を組み、購入できるようにできないか。必要なものを購入希望すれば、図書館で判断して予算の許す範囲でかえるように。(①)

- ・近年、附属図書館が電子メディアの導入に積極的に取り組んでいる印象を強く持っています。予算の問題などいろいろあるかとは思いますが、今後とも積極的に進めていってほしいと思います。(⑧)

9) 情報利用環境の整備

- ・図書検索用PCを増設して欲しい(特に3階部分に)。(①)

- ・熱生研の西表実験所はまだインターネットが入っていない。今年中には入る予定であり、インターネットが入れば、利用したいと思っている！(⑨)

- ・熱帯生物圏研究センターの3施設(瀬底、西表実験所、西原研究室)のうち、特に、西表実験所においては未だ電子的情報ネットワークの整備ができていないのが現状です。その点のご配慮をお願いします。(⑨)

10) 学内の他の情報関連施設との協力

- ・情報処理センターと機能を融合させ、例えば図書館内にもっと多くの端末を配置するなどの、情報処理にとってより有効な機能を発展させて欲しい。(①)

11) 図書館ガイダンス、Library Workshop Programについて、特に夜間主コースに対するサービス(17時以降のサービス)について

- ・ 図書館のガイダンスを授業(理学部基礎ゼミ I、II 受講数4~5人)で取り入れています。この授業はこれまで全て5時限目(16:20 始り)に設定されているため、図書館の職員に説明を依頼しにくい状態にあります。すなわち、教室に集合してから図書館に行くとなると16:30~16:35に図書館到着となり、5:00 pmまでの就労の職員に一時間の説明をお願いするのはとても後ろめたい気がします。それで、これまで図書館の職員に説明を依頼して来ませんでした。しかし、ここ2・3年授業評価をみますと、やはり図書館の職員にお願いした方がよいように思われます。負担過剰になるとは思いますが、5:00pm以降での図書館職員による説明が可能になるようにご配慮していただければうれしいのですが。(②)

12) その他

- ・ 学部ビルから図書館への距離があるため、十分な利用がはかれています。図書館のHPを活用した情報の収集を今後は考えていきたいと思えます。やはり、琉大図書館や各大学の蔵書内容がパソコンの機種を問わずにHPで瞬時に見れるようになれば有効だと思います。宜しくお願いします。(①)
- ・ 沖縄関係の資料に関する総合的な所蔵とデータベースを構築し、インターネットによって琉大だけでなく、広く利用できる仕組みを作って欲しい。(①)
- ・ CD-ROM検索は教官の個人端末だけでなく、共同研究室の複数台の端末から行えるようにして欲しい。(②←課金の問題が関係)
- ・ データベースを使わない理由：パソコンがつかえない。(⑨)

2. CD-ROMデータベースやオンライン・ジャーナル等の電子的情報資料サービス以外の図書館サービスに関する意見

1) 図書館サービス全般

- ・ 海外の図書館システムになじんでから琉球大学に赴任したので、違和感がいろいろあった。なぜ国際的な標準に準拠しなかったのだろうか。アメリカ支配時代に生まれた大学であるだけに不思議である。(②及び⑦)

2) 資料の購入方法について

- ・ 生協で本を購入した後に校費扱いができるようにして欲しいです。(②)

3) 雑誌の収集について

- ・ 1960、1970年代以前の理工系文献雑誌(通信学会、IEEE、IEE等)の収集を図ってほしい。(②)
- ・ 近年、図書館の一般図書や、CD-ROM等電子的情報資料等、充実してきており、図書館関係者のご尽力に感謝いたします。さて、一つ要望があります。ジャーナルの所有数を今後さらに充実させていただけないでしょうか。他の国立大学に比べさびしいような気がします。ご一考ください。(②及び⑧)

4) ホームページ、図書館システムについて

- ・ 図書館ホームページにアクセスしても、必要な情報が探しきれない。(①)
- ・ 購入リクエストをHP上あるいは電子メールで行えるようにしてほしい。(①)
- ・ また、これは法外な希望かも知れないのですが、データベースで検索した後、端末上で直接学外への文献依頼ができるようになると非常に助かります。(①)

5) 書架の整理

- ・ 図書の整理をきちんとしてもらいたい。あるべき場所に本がなかったり、データベース上、あるはずの本なのに「ない」といわれたり、リファレンスカウンターで何を訪ねても「わかりません」では、残念ですが図書館の

機能を果たしていないとしかいえません。バイトやボランティアの活用も良いですが、コアの仕事は是非プロの方々でやっていただきたいと思います。(①)

- ・また、デジタル情報も大切ですが、カウンターにある雑誌の一覧表や各書架に配置されている雑誌名の掲示などを随時修正していただきたいと思います。(①)

6) 広 報

- ・図書館が年々利用しやすくなっていることは、折々に頂くお知らせで知っているつもりですが、多忙を理由に活用をサボっているのが現状です。実際に使い始めるとますます活用するようになるでしょうし、いくつかの意見も申し上げられるかと思えます。どうぞ今後もお知らせは絶やさず頂きたいと思えます。(①及び⑧)
- ・学外からの有料書籍貸出手続き、料金、支払い方法、及び学外からの雑誌コピー取り寄せ手続き、料金、支払方法につき、貸出窓口に明文化した説明を常時備えてわかりやすくして下さい。切手・現金などその都度では困ります。(①)

7) 施設・設備

- ・図書館に個室研究室（畳2畳くらいでもよい）（点検ガラス及びカギ付）を設置して、特別な場合に期間を定めて使用許可を出すようにしてほしい（外国の大学でよくある）。(⑦)

8) その他サービス一般

- ・書庫の本の貸出期間をもう少し延長してほしいと思えます（2～3ヶ月間に）。(②)
- ・開館時間が短い。特に土日、休日の開館時間が短すぎるので、長くしてほしい。(①)
- ・本の返却を学内便でできるようにしてほしいと思えます。(②)
- ・不要になった本棚などは、希望のある研究室への無償配布をしていただければと思えます。(⑨)

9) その他

- ・大学で最も重要な部署は図書館であるので、是非充実に努めて欲しい。(①)
- ・図書館のサービスとして頑張っておられる様子が伝わってきます。今後ともよろしく願います。(⑧)
- ・琉球大学の図書館は、医学部分館も含めて非常に使いやすいシステムになっていると思えます。今後、ますます利用しやすい図書館に発展していくことを期待しております。(⑧)
- ・コピー機の数を増やして欲しい（公費で使えるもの）(②)
- ・1階の書庫の文献をコピーするのに便利なように、1階にもコピー機をおいて欲しい（それが無理ならせめてエレベータまたはダムベータが使えると助かります。……複数の雑誌をコピーする時、3階まで雑誌を持って行くのが大変です）(②)
- ・文献の複写を依頼する時に、雑誌の番号（A A……）を自分で調べることになっていますが、できたら、職員の方に調べていただきたい（人手不足で無理な願いかとは思いますが……）。(②及び⑦)
- ・医学部附属図書館を利用する機会が多いが、雑誌や図書の管理の悪さが目についた。以前いた大学の医学部附属図書館では、考えられないことである。常に管理されており、雑誌は所定の棚に必ず返却されていた。これは、図書館という公共の施設ではあたりまえのことであると思うが、残念ながらできていない。というより、かなり、ひどい状況にあると思う。あの乱雑さは何とかしていただきたい。探していた雑誌が、まったく別の書棚に入っていたことは1度だけではない。無駄な時間を費やしたことで非常に気分を害した記憶がある。図書の管理を徹底してほしい。利用者によびかけるだけでは、限界があると思うので、係の人が手を入れたらよいのではなからうか？ 他大学では、そういうことをしているようで、できないことはないと思えますが。他の業務で忙しいとは思いますが、図書館の業務の基本にもどり、よろしく願います。(①)

- ・県庁や国から出版されている保健・医療・福祉・経済等の資料は、できるだけ揃えて頂けたら幸いです。フィールドのデータを沖縄県や日本の平均と比較したいので、よろしくお願い致します。(①)
- ・今年度からの非常勤なので、いろんな意味でまだよくわかっていません。情報があればメールやチラシにて知らせてほしいです。(①)
- ・文献の検索も重要ですが、文献そのものが当

- 大学図書館にない場合の入手方法について、現在1～2週間かかってコピーが送られてくるし、依頼文書についてもホームページ等で受け付けるようにするとか、もう少し便利にできないものでしょうか？ 検索は最終的には文献を入手することにその意義があると思います。(①)
- ・ペットボトルの持ち込みが多いような気がします。(⑨)

原忠順文庫貴重資料展

－ 琉球処分（置県）直後の沖縄の状況 －

講演会「原忠順文書を通して見た置県直後の沖縄の社会状況」も同時開催

平成11年11月8日（月）から11月19日（金）まで、附属図書館1階多目的ホールにおいて、当館所蔵の「原忠順文庫」の貴重資料展を開催し、教職員、学生、会社員等一般市民多数の参加がありました。

原忠順（天保5年～明治27年）は、初代沖縄県令鍋島直彬（在任期間：明治12年4月～14年5月）の最も信頼のあつた右腕であり、鍋島藩を維新方にさせた立役者でもありました。また、沖縄県の大書記官として日常不在の鍋島県令の代理を勤め、廃藩置県（明治12年）直後の沖縄県の事実上の最高責任者でした。

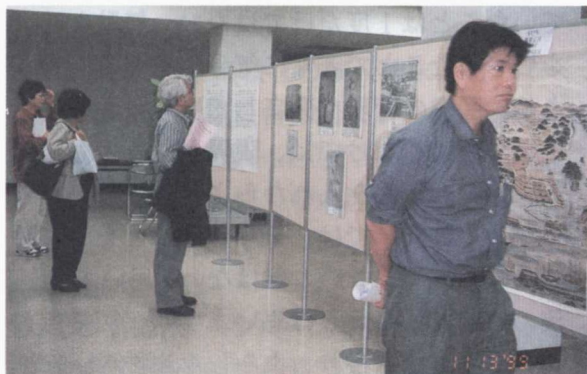
原忠順文書は琉球評定所記録や江戸上り関連文書、辞令書、原忠順自筆のメモ類の他、琉球処分をめぐる中央政府との確執が赤裸々に語られている書簡数百通が含まれており、琉球処分

に関する貴重な文書類です。今回は、所蔵資料の中から「原忠順書簡類」、「漢詩類」等の貴重な資料18点を展示しました。

また同展にあわせて、11月13日（土）午後2時より3時30分まで「原忠順文書を通して見た置県直後の沖縄の社会状況」という演題で本学の金城正篤法文学部教授による講演会を開催し、参加者に深い感銘を与えました。

このほか、展示と併せて、琉球王府時代に代々八重山の頭職を勤めた宮良家の古文書類、大正期の沖縄の風俗写真、本学風樹館所蔵の沖縄の動植物等も、電子情報で公開しました。

なお、展示会の開催にあたって、本学の金城正篤、上里賢一、豊見山和行氏の各教官に解説等のご協力を頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。



展示会風景



講習会風景

沖縄関係資料新着案内

1999年8月～1999年10月

0類 総記

1. 戦後沖縄の新聞人／真久田巧著 那覇：沖縄タイムス社, 1999.10 K070.2-MA
2. 使琉球録解題及び研究／夫馬進編 増訂版 宜野湾：榕樹書林, 1999.9 K092.4-FU

1類 哲学

1. 加計呂麻島ノロ祭祀調査報告 旧実久村編／松原武実, 高橋一郎共著 鹿児島：鹿児島短期大学, 1999.3 (南日本文化研究所叢書 24) K164-MA
2. 聖堂の日の丸：奄美カトリック迫害と天皇教／宮下正昭著 鹿児島：南方新社, 1999.9 K198.22-MI

2類 歴史

1. 東南アジアのなかの琉球／歴史教育者協議会編 東京：ホルプ出版, 1999.4 (世界と出会う日本の歴史 2) K200.7-RE
2. 沖縄人はどこから来たか：琉球＝沖縄人の起源と成立／安里進, 土肥直美共著 那覇：ボーダーインク, 1999.8 K201-AS
3. 琉球歴史の謎とロマン, その1：総集編&世界遺産／亀島靖著 那覇：環境芸術研究所, 1999.9 K201-KA
4. 村が語る沖縄の歴史：歴博フォーラム：「再発見・八重山の村」の記録／国立歴史民俗博物館編 東京：新人物往来社, 1999.5 K201-KO
5. 琉球・沖縄史研究序説／山下重一著 東京：お茶の水書房, 1999.7 K201-YA
6. 東アジア世界の地域ネットワーク／濱下武志編著 東京：山川出版社, 1999.5 (シリーズ国際交流 3) K201.18-HA
7. 悲劇の島・沖縄!／講談社総合編纂局編 東京：講談社, 1999.3 (日録20世紀：週刊YEAR BOOK スペシャル 3) K201.7-KO
8. 戦後の原像：ヒロシマからオキナワへ／進藤榮一著 東京：岩波書店, 1999.7 K201.7-SH

9. 嘉陽誌／嘉陽誌編纂委員会編集 名護：名護市嘉陽区事務所, 1999.4 K215-KA
10. 読谷の民俗, 補遺及び索引／読谷村史編集委員会編 読谷村 (沖縄県)：読谷村役場, 1998.3 (読谷村史 第4巻 資料編 3) K226-YO
11. 自然・地理資料編／南風原町史編集委員会編 南風原町 (沖縄県)：南風原町, 1997.12 (南風原町史 第2巻) K236-HA
12. 南風原が語る沖縄戦／南風原町史編集委員会編 南風原町 (沖縄県)：南風原町, 1999.3 (南風原町史 第3巻 戦争編ダイジェスト版) K236-HA
13. 石垣島古郷安良の原風景：その歴史と自然／石垣市総務部市史編集室編 石垣：石垣市, 1999.3 K251-IS
14. 地名でみる奄美振興事業：奄美振興事業の地名・事業総覧／入佐一俊著 鹿児島：[入佐一俊], 1998.7 K290-IR
15. 沖縄・南西諸島／あるつく社編集部編 東京：あるつく社, 1999.4 (歩く地図 S 25) K290.9-AR
16. Island Guide／comp. and ed. by Ayumi Luke and Marie Conway [s.l.]：Japan Up date, 1999 K290.9-IS
17. じゃらんでDE沖縄, 1999-2000年保存版／じゃらん編集部編 東京：リクルート, 1999.6 (ニッポンお遊び探検隊シリーズ) K290.9-JA
18. かごしまネイチャーBOOK：鹿児島の自然と遊ぶ本：屋久島・奄美大島・霧島・大隅・薩摩 東京：山と溪谷社, 1999.4 (山と溪谷 別冊) K290.9-KA
19. 鹿児島・奄美のきれいな海辺／かくのぶえ著 鹿児島：南方新社, 1997.8 K290.9-KA
20. 沖縄／目黒惇編 東京：音楽之友社, 1999.5 (先生のための音楽修学旅行シリーズ 1) K290.9-OK
21. 新南嶋探検：笹森儀助と沖縄百年／琉球

- 新報社編 那覇：琉球新報社, 1999.9
K290.9-RY
22. やえやまGUDE BOOK：南国世果報体験,
1999～2000年版 石垣：南山社, 1999.2
K290.9-YA
23. 沖縄／山と溪谷社大阪支局編 東京：山
と溪谷社, 1999.7 (J GUIDE 28)
K290.9-YA
24. 八重山ジャンルごと小事典／崎原恒新著
那覇：ボーダーインク, 1999.8 K295-SA
- 3類 社会科学**
1. 筑紫哲也の「世・世・世 (ゆー・ゆー・
ゆー)」：おきなわ版「多事争論」, パート
3／筑紫哲也著 那覇：沖縄タイムス社,
1999.7 K302-CH
2. 忍従の沖縄と大和人 (ヤマトウンチュ)
／長谷川忠男著 東京：近代文芸社,
1997.5 K302-HA
3. 沖縄を読む／情況出版編集部編 東京：
情況出版, 1999.4 K302-JO
4. 沖縄の問いかけ：苦難の歴史と共生の願
い／隅谷三喜男著 東京：四谷ラウンド,
1998. 10 K302-SU
5. オキナワなんでも事典／池澤夏樹編集代
表 那覇：インパラ；東京：ひつじ書房
(発売), 1999.10 K303-IK
6. 與那国：町制施行50周年記念誌／与那国
町制施行50周年記念誌編纂班編 与那国町
(沖縄県)：与那国町役場, 1999.3
K318.2-YO
7. 下地町総合計画：基本構想・基本計画／
下地町総務課編 下地町 (沖縄県)：下地
町, 1983.3 K318.7-SH
8. 二十一世紀、沖縄-日本の将来像：併合
25周年と沖縄自立の展望／川満信一 [ほか]
著 東京：スペース303, 1998.4 K319-KA
9. アメリカは何故、沖縄を日本から切り離
したか／宮里正玄著；沖縄市企画部平和文
化振興課編 沖縄 (沖縄県)：沖縄市,
1999.8 (KOZAの本3) K319-MI
10. 沖縄戦から何を学ぶか：戦争を知らない
世代のための平和学習書／沖縄県教育文化
資料センター編 那覇：沖縄時事出版；那
覇：沖縄学販 (発売), 1999.9 K319.8-OK
11. 沖縄経済・産業自立化への道／富川盛武,
百瀬恵一共編 東京：白桃書房 1999.7
K332-TO
12. 窓をあければ：暮らしの中のジェンダ
ー話／糸数貴子 [ほか] 著 那覇：ボーダ
ーインク, 1999.8 (ボーダーブックス3)
K367.2-IT
13. 戦後沖縄児童福祉史：児童福祉法制定50
周年記念／沖縄県生活福祉部編 那覇：沖
縄県, 1998.3 K369.4-OK
14. 戦後沖縄教育の軌跡／嘉納英明著 南風
原町 (沖縄県)：那覇出版社, 1999.5
K372-KA
15. 子どもが輝く瞬間：八重山10年・教師の
眼：知念かねみ写真集／知念かねみ著 那
覇：ニライ社, 1999.8 K376-CH
16. 異文化接触と変容／沖縄国際大学公開講
座委員会編 宜野湾：沖縄国際大学公開講
座委員会, 1999.3 (沖縄国際大学公開講座
8) K379.4-OK
17. ハングルと唐辛子：沖縄発・東アジア行っ
たり来たりの文化論／津波高志著 那覇：
ボーダーインク, 1999.9 K380-TS
18. 沖縄からアジアが見える／比嘉政夫著
東京：岩波書店, 1999.7 K382-HI
19. 胃袋で感じた沖縄／佐藤尚之著 東京：
コスモの本, 1999.6 K383.8-SA
20. 海を渡る神々：死と再生の原郷信仰／外
間守善著 東京：角川書店, 1999.5
K385.1-HO
21. 沖縄ウェディングBOOK'99 浦添：プロ
ダクションあびい, 1999.6 K385.4-OK
22. 日本の伝統芸能：沖縄の芸能：伊豆の島々
の芸能／本田安次著 東京：錦正社,
1999.9 (本田安次著作集19) K385.7-HO
23. 奄美シマウタへの招待／小川学夫著 鹿
児島：春苑堂出版；鹿児島：春苑堂書店 (発
売), 1999.8 (かごしま文庫55) K388.9-OG
- 4類 自然科学**
1. EMの世界と未来：EM活用事例集 (沖縄
編) 宜野湾：EM研究機構, 1998.11
K465-EM

2. 宜野湾港マリーナ沖サンゴ礁の動植物／宜野湾の美ら海を考える会編 那覇：宜野湾の美ら海を考える会，1999.7 K481.72-GI
3. ウミウシガイドブック：沖縄・慶良間諸島の海から／小野篤司著 東京：ティービーエス・ブリタニカ，1999.7 K484.6-ON
4. 生態写真で見る沖縄の蝶／具志堅猛編著 本部町（沖縄県）：琉宮城蝶々園，1999.8 K486.8-GU
5. 沖縄の長寿／尚弘子，山本茂共編 大阪：学会センター関西，1999.6（健康の科学シリーズ9） K498-SH

5類 技 術

1. 首里城を救った男：阪谷良之進・柳田菊造の軌跡／野々村孝男著 那覇：ニライ社，1999.10 K526.2-NO
2. 奄美群島の経済社会の変容／鹿児島県立短期大学地域研究所編 鹿児島：鹿児島県立短期大学，1999.3（鹿児島県立短期大学地域研究所叢書） K586.47-KA
3. 雑談泡盛・古酒25年／伊波克典〔編〕読谷村（沖縄県）：傑作くん，1999.6 K588.57-ZA
4. ハーブ料理とハーブの本：太陽の邦体にやさしいハーブ料理と栽培利用の仕方／安谷屋純一，翁長周子共著 浦添：沖縄出版，1999.5 K592-AD
5. シマヌジュウリ：奄美の食べものと料理法，新版／藤井つゆ著 鹿児島：南方新社，1999.8 K596-FU
6. 珊瑚の島の家庭料理，VOL.2／石垣愛子著 石垣：民宿石垣島，1999.4 K596-IS
7. 私の好きなすばや物語，2／すばドゥシの会'99編 那覇：ボーダーインク，1999.7 K596.3-SU

6類 産 業

1. 21世紀、沖縄の産業戦略：自立経済をめざして／自治体学会沖縄地域フォーラム・具志川支部「参水会」〔編〕具志川：自治体学会沖縄地域フォーラム・具志川支部「参水会」，1999.4 K601-JI
2. 世界島嶼地域ジャーナリスト会議報告書：

- J-GIS'93〔那覇〕：世界島嶼会議実行委員会，1993.12 K601-SE
3. 南島経済史の研究／山本弘文著 東京：法政大学出版局，1999.8 K611.22-YA
4. 沖縄の盆栽／比嘉正喜監修 那覇：オーキッド社，1998.10 K627.8-OK
5. HAPPY ISLANDの本，5／多喜ひろみ編著 那覇：ボーダーインク，1999.9 K699.6-TA

7類 芸 術

1. 勝連町の遺跡：遺跡詳細分布調査報告／勝連町教育委員会編 勝連町（沖縄県）：勝連町教育委員会，1993.3（勝連町の文化財 第17集） K709.2-KA
2. 日本のゴーギャン：田中一村伝／南日本新聞社編著 東京：小学館，1999.6（小学館文庫） K721.9-TA
3. ぶながやの森／手塚カズ文・絵 東京：MBC21，1999.7 K726.5-TE
4. 甌島列島：東シナ海に屹立する磐なす島々／橋口実昭著 鹿児島：南方新社，1998.9 K748-HA
5. 笑うマチグァーア：沖縄の市場／環境デザイン機構編 那覇：三浦クリエイティブ；1999.6 K748-KA
6. 銀河の世界：親川正治作品集／親川正治著 沖縄（沖縄県）：おもろ出版，1998.11 K751-OY
7. 沖永良部島・国頭の島唄：林正吉のノートより／林正吉〔著〕東京：シーサーファーム音楽出版，1999.8 K767.5-OK
8. 三線のはなし／宜保榮治郎著 那覇：ひるぎ社，1999.7 K768.11-GI
9. 三線のひろがり可能性展：特別展／沖縄県立博物館編 那覇：沖縄県立博物館，1999.8 K768.11-OK
10. 翔舞：琉舞に魅せられて／玉城節子著 那覇：沖縄タイムス社，1999.7 K769.1-TA
11. 夢幻琉球・つるヘンリー／仲里効編 岡山：市民プロデューサーシステム，1999.8 K778-NA
12. チバリヨ！沖縄球児：甲子園の栄冠は我に輝く：首里高の夏出場から41年、悲願の

- 大旗が初めて海を渡った!／日本スポーツ出版社〔編〕 東京：日本スポーツ出版社，1999.9 (Nippon sports mook) K783.7-NI
13. 沖縄・甲子園名勝負物語：熱闘の軌跡32選／沖縄タイムス社編 那覇：沖縄タイムス社，1999.8 (沖縄タイムス・ブックレット8) K783.7-OK
14. ボクサー回流：平仲明信と「沖縄」の10年／山岡淳一郎著 東京：文藝春秋，1999.7 (Sports Graphic Number Books) K788.3-YA
15. 沖縄空手道・古武道の真髄／外間哲弘著 南風原町 (沖縄県)：那覇出版，1999.8 K789.2-HO
16. 空手伝真録：伝来史と源流型／金城昭夫著 豊見城村 (沖縄県)：沖縄図書センター，1999.7 K789.2-KI
17. 空手道教本，2／渡口政吉著 東京沖縄県空手道剛柔流尚礼館本部，1999.8 K789.2-TO
18. 松濤館六十年のあゆみ：松濤翁船越義珍先生生誕百三十年記念誌／松濤会編 東京：日本空手道松濤會，1998.10 K789.2-SA
- 8 類 語 学**
1. 大琉球語辞典／中松竹雄著 那覇：げんけん出版，1999.1 K800-NA
2. 沖縄語概説／中松竹雄著 那覇：沖縄言語文化研究所，2000.1 K800-NA
- 9 類 文 学**
1. 獏さんがゆく／茨木のり子著 東京：童話屋，1999.4 K902-YA
2. かなし島歌／湖城恵章著 東京：東洋出版，1999.8 K913-KO
3. 命どう宝：ジュゴンのように：詠みたい放題／いとみつる著 那覇：いとみつる事務所，1999.9 K915-IT
4. ユキオー詩集／小嶺幸男著 那覇：月刊沖縄社，1999.10 K917-KO
5. 私的墓碑銘：詩集／古島誓司著 那覇：APO，1999.3 K917-KO
6. いまを病む無明の時：幸喜孤洋追悼集／「こよう」会編 中城村 (沖縄県)：こよう会，1999.1 K917-KO
7. 夏の出来事／大城和喜著 那覇：ボーダーインク，1999.5 K917-OS
8. 不安定な車輪：詩集／茂山忠茂著 鹿児島：南方新社，1996.12 K917-SH
9. 宇宙の根っこの島で：詩集／テリー・テルヤ著 那覇：ボーダーインク，1998.10 K917-TE
10. 魂込め (まぶいぐみ)／目取真俊著 東京：朝日新聞社，1999.8 K930-ME
11. 物怪物語と沖縄霊異記／三苫浩輔著 東京：おうふう，1999.5 K930-MI
12. ヤンバルの風と歌声／湖城恵章著 東京：東洋館出版社，1989.10 K940-KO
13. 沖縄戦研究，1 - 2／沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編 那覇：沖縄県教育委員会，1998.10-1999.2 K950-OK
14. 神々の棲む南の果て (パイパテローマ)の島で：わが癒し、そして再生の物語／高木凜著 東京：海竜社，1999.8 K950-TA
- 注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

本学教官著作寄贈図書案内

1999年8月～1999年10月

- 津波高志 (法文学部) リーズ9) K498-SH
 ハングルと唐辛子／津波高志著 那覇：ボーダーインク，1999. K380-TS
- 永井 實 (工学部)
 イルカに学ぶ流体力学／永井實著 東京：オーム社，1999.8 (テクノライフ選書) 423.8-NA
- 新城澄枝 (教育学部)
 沖縄の長寿／尚弘子，山本茂共編 大阪：学会センター関西，1999.6 (健康の科学シ
 注) 各資料末尾の記号は請求記号です。



場 所:	琉球大学附属図書館 1階 多目的ホール
上映時間:	
☆休業期	13:30~
通常期	①15:00~ ②18:00~

【1月の予定】

- ☆1月5日(水) 風と共に去りぬ: GONE WITH THE WIND/1939/アメリカ映画 232分
- 1月12日(水) 緋文字: THE SCARLET LETTER/1926/アメリカ映画 86分
- 1月19日(水) 伊豆の踊子/1933/松竹キネマ蒲田作品 94分 <B&W=弁士説明付き>
- 1月26日(水) シラノ・ド・ベルジュラック: CYRANO DE BERGERAC/1950/アメリカ映画 112分

【2月の予定】

- 2月2日(木) 嘆きの天使: DER BLAUE ENGEL/1929/ドイツ映画 107分
- 2月9日(水) モロッコ: MOROCCO/1930/アメリカ映画 95分
- 2月16日(水) 情事の報酬~カタリーナの失われた名誉~: DIE VERLORENE EHRE - DER KATHARINA BLUM -/1975/西ドイツ映画 106分
- ☆2月23日(水) イントレランス: INTOLERANCE/1916/アメリカ映画 162分

【3月の予定】

- ☆3月1日(木) ベン・ハー [1925年版]: BEN-HUR/1925/アメリカ映画 143分
- ☆3月8日(水) 海外特派員: FOREIGN CORRESPONDENT/1940/アメリカ映画 121分
- ☆3月15日(水) ベン・ハー [1959年版]: BEN-HUR/1959/アメリカ映画 224分
- ☆3月22日(水) パットン大戦車軍団: PATTON/1970/アメリカ映画 172分
- ☆3月29日(水) 欲望のあいまいな対象: CET OBSCUR OBJET DU DESIR/1977/フランス=スペイン合作映画 104分

※ 映画会に関するお問い合わせ・ご要望は、図書館資料サービス係まで Tel: (895) 8166

平成11年度NACSIS-IR(新IR対応)地域講習会を開催

平成11年11月16日(火) 13:30~16:00の半日、教官・院生・図書館職員を対象に、学術情報センターと附属図書館の共催で、標記講習会を開催しました。説明会場は附属図書館1階多目的ホールを使用し、体験実習は2階情報検索コーナーで行われました。

「NACSIS-IR」(オンライン情報検索システム)は学術情報センターが提供するデータベースですが、今回行ったのは平成12年1月にサービスが開始される新しい情報検索システム(新IR対応)の操作方法を広く知らせるための講習会です。

講師には学術情報センター職員3人と講師補助者として当館職員3人が参加しました。

50人定員に対し、45人の申込があり、県外から1人、学外から14人、学内研究者が18人、図書館職員4人の合計37人が参加されました。

テキストには「新IR講習会資料(30p)」を用い、操作体験実習は3グループに分けて実施されましたが、参加者は皆熱心で16:00終了の予定が17:10分頃までかかり有意義な講習会となりました。

講習会風景



お知らせ

◎ 開館案内 2000年1～3月

1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5				1	2	3	4
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	5	6	7	8	9	10	11
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	12	13	14	15	16	17	18
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	19	20	21	22	23	24	25
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29					26	27	28	29	30	31	
30	31																			

- ・開館時間 通常期：月～金 [黒字] 8:30～22:00 土・日 [緑字] 13:00～20:00
- ・ 休業期：月～金 [青字] 8:30～17:00 土・日 [赤字] 休館
- ・休館日 [赤字] 土・日曜 (冬季休業：12/25～1/6、春季休業：2/22～3/31)
 年末年始 (12/28～1/4) 入試 (1/15～1/16、2/25～2/26)
 祝 日 (1/10、3/20) 定例休館日 (1/27、2/24、3/23)

※本館では当月、翌月の開館案内(カレンダー)を入り口及び掲示板に掲示しています。
 ご留意ください。(年間の開館案内はホームページをご覧ください)

◎長期貸出開始

2月21日(月)～3月31日(金)は春季休業のため、2月7日から長期の貸出しを行います。
 貸出冊数は通常通りで変更はありません。返却期限は、4月13日(木)です。
 ただし、卒業生の貸出期限は3月16日までとなります。また、長期貸出した資料については、
 貸出延長の手続きはできませんのでご注意ください。

[総合カウンターの設置]

平成12年1月から、これまでのレファレンスカウンターを総合カウンターとして利用者サービスを行うことになりました。昼休み・夜間を除き、平日の9:00～12:00、13:00～17:00の時間帯に、
 図書館職員が下記のようなことについて利用者の応対・案内を行いますので、ご活用ください。
 (電話は、資料サービス係と兼用で 098-895-8170 直通です)

- ① 図書館利用全般に関する案内、質問の受付
- ② クイックレファレンス、参考質問、学外資料利用申込みの受付
- ③ 届いた複写物の引渡し、複写に関する問合せ
- ④ その他、貸出・返却の対応以外の、どのような質問でもお受けします。

★今回限りで「沖縄関係新着案内」「本学教官著作寄贈図書案内」が、紙面から消えることになりました。今後は附属図書館のホームページをご覧ください。また、図書館の「パンフレットコーナー」等で入手できるよう予定しています。

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第33巻 第1号 (通巻第125号)

平成12年1月1日発行

発行：琉球大学附属図書館 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098(895)8168 Fax.098(895)8169

発行人：附属図書館事務部長 伊藤祐三 編集：“びぶりお” 編集委員会